

生徒の読書意欲向上に貢献

有馬高を文科大臣表彰

子どもの読書への意欲を高める取り組みをした学校を、文部科学大臣が表彰する「読書活動優秀実践校」に本年度、有馬高校(三田市天神2)が選ばれた。2年前と比べ、

昼休みに図書室を利用する生徒が4倍近くに増えたという同校。その理由の一つは、図書室を「飲食OK」にしたことだった。(山本 晃)

図書室で「飲食OK」→2年で利用者4倍に



読書活動の優れた実践が評価され、文部科学大臣表彰を受けた有馬高校の図書委員ら＝いずれも三田市天神2

学校一丸で工夫、P R

同校全日制課程の図書室は、本館4階の端にある。教室などがある棟からは離れていて、入学後、一度も足を踏み入れずに卒業する生徒もいたという。「まずは場所を知ってもらいたい」。2年前、当時

の担当教諭が中心となり、昼休みに限って、図書室内での飲食を許可した。

図書館や図書室は「飲食NG」が一般的だ。その中で、新ルールは、弁当などで本が汚れるかもしれないという懸念もよぎったが、

実際はそうした事例はなく、利用者の増加につながった。

本年度前期の図書委員長を務める2年の出蔵桃子さん(16)は「食べ終わった後に、本を読む生徒が多い。図書室が気軽に来ることができた場所になった」と効果を話す。

昼休みに図書室を訪れた生徒の延べ人数は、2022年度の791人から、23年度には2197人に。24年度はさらに増え3152人と、22年度と比べ4倍近くに増えた。放課後の利用者と合わせた人数は、24年度延べ約5千人になった。単純に訪れる数を増やすだけでなく、読書につながる工夫も凝らしてきた。同校では、読みたい本を各



関心を持ってもらえるよう、配置にもこだわっている

学級の図書委員が取りまとめ、審査の上、年間の予算内で購入している。

昨年度に19冊を借りた3年の牧野柚衣さん(18)は、「(購入の)リクエストが通ったこともありうれしい。本屋と違い、落ちついて読めるのが図書室の魅力」とほほ笑む。

また、同校の生徒は2年前から、お薦めの本の魅力をスピーチして競う「ビブリオバトル」の県大会に出場。校内予選を勝ち抜き、2年前に県大会で準優勝を果たした3年の桜井広汰さん(18)は「触れたことのない本のジャンルにも出会える」と図書室を気に入っている。

図書委員会(36人)の活動も活発だ。6月の文化祭、12月のクリスマス会では、本にちなんだクイズを出したり、本が原作になった映画作品をDVDで上映したりする企画を考案。図書室内では、手に取ってもらえるように展示方法も工夫している。

今回、読書活動優秀実践校に選ばれたのは全国で136校、県内は3校。文科省の式典は4月にあり、5月下旬、校内で図書委員たちが賞状を受け取った。出蔵さんは「委員だけで

なく、司書の先生たちも含めて皆でつかんだもの」と喜び、「図書室が、学校と部活動以外の第三の居場所になれるよう、これからも頑張りたい」と思いを語った。